

キャラクター名
フェル・ソフィーティア

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー ノイマン	ワークス	フリーター	カヴァー	高校生
オプション		年齢		性別	
覚醒	探求	衝動	破壊	初期侵食率	48 %
出自	天涯孤独	経験	伝説	邂逅	秘密

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	647
肉体	1	1	0		5	7	行動値	27
感覚	2	0	0		5	7	(非装備時)	27
精神	4	0	0		9	13	戦闘移動	32
社会	1	0	0		5	6	全力移動	64

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC			交渉		
回避			知覚			意志	1		調達		
運転:	2		芸術:			知識:	2		情報:ウェブ	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き剣	白兵	7r+2	5	43		
スカーレット・バースト	白兵	42r+12	5	63		攻撃力+9d 1計1回
スカーレット・レイン	白兵	42r+12	5	63		1計2回
スカーレット・ストリーム	白兵	37r+2	5	63		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
デモンズシールド	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
ティナ・S・ハミルトン	P 純愛	N 不安		
ゼーレ	P 好奇心	N 猜疑心		
紅雪	P 感服	N 疎外感		
実験体	P	N		
対抗種	P	N		
変異種	P	N		
古代種	P	N		

最大財産P: 12 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
不死者の血	1	-	常時	至近	//	//	-	
効果:	ブラムの消費HPが0になる							
王者の血	1	-	//	//	//	//	-	
効果:	ブラムの回復HP+15							
レネゲイドライフ	6	-	//	//	//	//	-	
効果:	HP+600、侵食値によるエフェクトLV修正-1							
ミスリード	3	-	オート	視界	単体	//	-	
効果:	自動成功打消し、HP30消費							
ラストアクション	1	5	//	至近	自身	//	100↑	
効果:	死ぬ寸前にメインプロセスを行う							
無限の血肉	3	4	オート	至近	自身	自動	リミット	
効果:	戦闘不能時HPをLVD点回復							
ハイブリーディング	1	6	//	//	//	//	120↑	
効果:	使用回数1回復 侵食分HP失う							
ディフレクション	3	4d10	//	視界	単体	//	120↑	
効果:	HPダメージ(LV×10)軽減し、攻撃した対象に同じ数値のダメージを与える							
不死不滅	3	4d10	//	//	//	//	120↑	
効果:	戦闘不能時、LV×10回復して復活							
ストレイトブラッド	1	4	オート	10m	単体	自動	-	
効果:	達成値-(ブラッド)の消費HP×2)							
赫き剣	5	3	マイナー	//	//	//	-	
効果:	LV×2以下のHP消費で剣作成							
破壊の血	5	3	//	//	//	//	リミット	
効果:	赫き剣のG値+5、攻撃力+(LV×3)							
コントロールソート	1	2	Xジャー	武器	-	//	-	
効果:	白兵判定を精神で							

「英雄についてってまた難しい問いだね。うーん、私はちょっとなって感じだよ？だって、大衆的な目で見られた場合アサー王とかキリストとか、色々思いつくと思うけれど、その人にとっての英雄は多分違うと思うんだよね。だって、人それぞれ一人一人が違う環境で過ごしてるからね。出会う人だって違うと思うし、趣味とかも違うでしょ？助けてもらった人かもしれないし、親かもしれないし。そういうのは人それぞれだよ」 □□□□どこかのインタビューより

大昔、それも5万年はくだらないレベルで老いも死にもしない少女。それがフェル・ソフィーティアである。一度たりともジャームになったことはなく、これからはならないだろう。その理由は多々あるが、一番の理由として「彼女は自分に害を為す存在のみを殺してきた」からである。彼女にとって害とは「命のやりとりをする相手」だけであり、腹が立って殺したことは……一度しかない。それ以外は大体の人にとっての友達として存在していた。彼女たち古代種にとって人間の命は蟬蟻のような存在であり、共に立てる人は数少ないからである。

